

「元気やまなし産業ビジョン」(素案)

県民意見提出制度による提出意見とそれに対する県の考え方

	箇所	意見の内容(概要)	意見数	意見に対する県の考え方(対応方針)
1	P41～44、P51～53の事例紹介	<p>やまなし産業大賞(ものづくり大賞部門・経営品質大賞部門)の中で、小規模事業者の受賞内容を事例紹介に取り上げ、掲載してほしい。</p> <p>平成29年度 アサヤ食品(株) (株)オーテックエレクトロニクス 平成28年度 山梨銘醸(株) (株)イトウ・アット・ホーム など</p>	1	<p>【修正加筆等意見反映】</p> <p>誌面の都合もあり、やまなし産業大賞・ものづくり大賞部門で優秀賞を受賞した中から、小規模企業における新たな付加価値の創出に取り組んだ事例として、アサヤ食品(株)の事例を、新たに加筆することとします。</p>
2	全般	<p>元気やまなし産業ビジョンという名称について</p> <p>元気やまなし産業ビジョンの名称について、「元気」という表現を産業ビジョンのタイトルに使用することは、あまり馴染みのない印象を受けます。否定する意見ではありませんが、「元気」という文言にどのような意味づけがあるのか本文からは読み取れなかったため、お教えください。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>本ビジョンを羅針盤として事業活動を活発に行う企業等が増えることで山梨県全体を元気にしたいとの願いを込めて、「元気やまなし産業ビジョン」と名付けました。</p>
3	第3章(2)、第4章(1)	<p>- 中小企業の割合が高いことが弱み、と位置づけられていますが、強みではないでしょうか。</p> <p>中小企業等の割合の高さが本県事業環境の弱みとされていますが、ICT活用技術の導入、人材育成が大企業に比べて遅れる傾向があり、中小小規模企業への支援はコスト高で非効率であると読み取れなくもありません。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>現在、中小企業・小規模企業の一層の成長発展・持続的発展を目指し、「山梨県中小企業・小規模企業振興条例」の制定・「中小企業・小規模企業振興計画」の策定により、中小企業・小規模企業の振興に力を注いでおりますので、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
4	第3章(2)、第4章(1)	<p>- 一方では産業構造の偏りとして、機械電子産業の集積と、この産業が不振となった場合には県経済全体に大きな影響を及ぼすとありますが、これはこれまでの、大企業あるいは大企業関連会社の誘致に重点をおいてきた結果であります。極端な景気下振れの際には大企業は地元経済や雇用への影響を考慮せず、撤退の判断をしていくのは市場原理として当然であり、その根本的、構造的な問題を見つめ、今後のビジョンを描く必要があります。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>現在、中小企業・小規模企業の一層の成長発展・持続的発展を目指し、「山梨県中小企業・小規模企業振興条例」の制定・「中小企業・小規模企業振興計画」の策定により、中小企業・小規模企業の振興に力を注いでおりますので、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>
5	第3章(2)、第4章(1)	<p>- SWOT分析の中で、強みに機械電子産業の集積があり、弱みに産業構造の偏りがあるように、強みに中小企業等の割合の高さも入る発想の転換が必要ではないでしょうか。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>クロスSWOT分析では、強みであれ弱みであれ、機会や脅威と掛け合わせており、それらから導き出された戦略から今後の方向性を導き出しています。</p>

「元気やまなし産業ビジョン」(素案)

県民意見提出制度による提出意見とそれに対する県の考え方

	箇所	意見の内容(概要)	意見数	意見に対する県の考え方(対応方針)
6	第3章(2)、第4章(1)	- 中小企業憲章(2010年6月閣議決定)では、中小企業は日本経済の主役である、と謳われている通り、地域の雇用を支え地場産業、文化、教育(仕事を通して人が育つ場)の担い手となっていることは事実であります。従って、P20の強みを生かした積極的戦略に既存中小企業の潜在力の発揮、弱みで機会を逃さないための戦略でICT化等の合理化支援と創業と事業承継、ネットワーク化(連携)の支援を入れるべきと考えますがいかがでしょうか。	1	【記述済み】 ＜連携による今後の取り組み＞として、エンジン で【IoTやAIの活用】(P37)、【事業承継の円滑化】(P38)に、エンジン で【多様な起業・創業の活性化】(P55)に取り組むこととしています。
7	第3章、第4章	- 過去発表された山梨県の産業連関表を基に統計調査課の素晴らしい分析結果が公表されています。最新版の産業連関表に基づき、改めて1県外から資金(外貨)を獲得している強みのある産業は何か、2地域の事業者が得た所得が、県民の所得になっているか、3県民の所得が県内で消費されているか、4県民の預金が県内に再投資されているか、5県外へ県内資金がどの程度流出しているか(域際収支はどうか)をしっかりと把握することが新ビジョンを描く際には重要だと考えます。	1	【その他】 ビジョンの策定に当たっては、業界団体、県内外の企業経営者・有識者などからの意見聴取や、学識経験者や県内産業界からなる有識者会議での検討を踏まえて策定しておりますが、今後、取り組みを進めるに当たっての参考とさせていただきます。
8	第3章、第4章	- 加えて、現段階では発表されていない各市町村もしくは県内のブロック(峡北、峡中、峡南、東部、富士五湖地域など)での産業連関表の作成や地域経済分析に基づいた、より小さなエリアでの「地域ビジョン」を描く取り組みも有効だと考えます。	1	【その他】 ビジョンの策定に当たり、各地域における取り組みも踏まえて検討してきましたが、有識者会議等での検討を経て、集約された形となり、全体としてのビジョンをお示しすることとなりました。
9	第3章、第4章	- クリーンエネルギー活用の研究開発に優位性があるのであれば、エネルギーシフトの視点でエネルギーの地産地消のシステムの構築が可能ではないでしょうか。 地域経済の「最大の漏れ穴」はエネルギー料金の支出だといわれています。この「最大の漏れ穴」を小さくしていくことに正面から取り組むことが、自立的で持続的に発展する本県経済の確立につながるのではないのでしょうか。	1	【反映困難】 エネルギーの地産地消については、「やまなしエネルギービジョン」において対応していくこととしています。
10	第5章	上記意見 ~ から、山梨県経済を好循環させる3つのエンジンの中に、 として、中小・小規模企業の経営支援を中軸においた産業施策の展開 として、県内でのエネルギーの自給自足の実現 を追加していただきたいと思えます。	1	【反映困難】 は、現在、条例に基づき「中小企業・小規模企業振興計画」を策定し、中小企業・小規模企業の振興に力を注いでおります。 は、「やまなしエネルギービジョン」において対応していくこととしています。